

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

多面的な視野から考え、判断し、よりよい生き方を追求する生徒の育成

～ ICT等を活用した分かる授業・魅力ある授業を核として～

＜本年度の学力向上策＞

1 基礎学力向上を目指した「成果確認テスト」の実施

(1) 実施教科：国語、社会、数学、理科、G・S

(2) 実施回数：各教科1学期に1回（ただし、各教科3回目については“まとめ”のテストをする）

(3) 各教科、成果確認テストへの意識向上対策の実施

2 分かる授業・魅力ある授業の展開

(1) 各教科において、ICT等の効果的な活用及び、生徒がICT機器を使用する場面の設定

(2) 各教科、年1回の研究授業の実施（道徳含む）

(3) ペア学習、グループ学習等を取り入れ、主体的・能動的・協同的な活動を充実させる。

3 さいたま市学習状況調査及び定期テストの結果の分析と活用

(1) さいたま市学習状況調査からみられる各教科の成果と課題を把握する。

(2) 定期テストを改善し、各教科の成果と課題を把握する。

(3) 学力向上カウンセリング学校訪問を活用した調査結果の分析と学力向上策の見直しを図る。

<本年度の振り返り>

学力向上策の振り返り

1について

- 国語⇒繰り返し学習
- 社会⇒授業との連携
- 数学⇒家庭学習の設定
- 理科⇒単元の重点項目の出題
- G・S⇒評価への比重を上げる

※各教科ともに、繰り返し学習や評価への比重を高くすることで、成果確認テストの意欲向上に繋がった。

2について

- (1) 達成率は100% 全教職員が何らかの形でICT機器を用いる、あるいは生徒が使用する場面が設定されていた。
- (2) 社会、数学、理科、G・S、家庭科、道徳が研究授業を実施した。
- (3) 達成率は95% 主体的・能動的・協同的な活動を充実させようと努力した。

3について

(1) 及び (2)

- 国語⇒全領域において向上を図りたい。特に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に重点を置く繰り返し学習
- 社会⇒「資料活用能力」について向上が見られた。一方で、知識・理解を活用し論述する面で課題が多い。しかし、定期テストにおいては抵抗感は少なくなっているため、自信を持つ生徒が多くなっていることを実感した。
- 数学⇒基本的な計算問題の正答率が低く、関数領域に苦手意識を持っている生徒が多い。
- 理科⇒生命領域・粒子領域の正答率が低い
- G・S⇒外国語表現の能力において、正答率が低い。定期テストにおいては、記号問題を増やしたり、スピーキングテストの回数を増やすなどの工夫をした。入試問題に近い形式を取り入れた。

以上のような、課題を把握することができた。

- (3) 今年度は実施できなかった。